

令和7年度 第3回吉田支所管内の振興に係る地域懇話会概要

日 時	令和8年3月5日 14時～16時
場 所	吉田福祉センター2階 多目的室
出 席 者	地域懇話会委員、地域活性化アドバイザー、事務局
会 次 第	○協議事項 (1) 7年度事業の振り返り (2) 8年度事業計画 (3) 意見交換 【協議題①】「地域資源等を生かしたイベントの開催の方向性」について 【協議題②】「吉田の魅力発信」について 【協議題③】「吉田で笑って暮らすための支援の検討」について (4) その他
主な意見等	(1) 7年度事業の振り返り 【事務局】 ○おごじょ会の秋祭りに関して、苦労したことなどを教えていただきたい。 【委員からの意見】 ○おごじょ会は、6名で活動内容を考えており、男性の力が必要な際に苦労している。お年寄りと子供たちが多いため、けがのことなどを考えると、参加者の人数的に限界を感じている。支所はもしもの時の対処はどうしているのか。 【事務局】 ○イベントの際は支所の保健師に従事していただいている。 (2) 8年度事業計画 (3) 意見交換 【協議題①】「地域資源等を生かしたイベントの開催の方向性」について 【各委員等からの意見】 ○支所主体から地域主体になると、規模はやはり小さく感じるが、地域内で様々な繋がりが広がっていくと良いと感じている。 ○大きなイベントは、企画や運営の部分で人任せがちになるため、地域主体にすると自分が発信しないといけない使命感を感じて良いのではないかと。また、インスタ発信以外にもティックトックでの発信が面白いのではないかと。 ○地域のつながりが薄くなっているように感じる。どうにかしなければと思い、味噌づくり・グラウンドゴルフサークル・手芸サークルを作成したが、なかなか集まらない。地域外から味噌づくりに参加される方もいるため、インスタなどでそういった活動を地域に広げていくことで、地域のつながりが広がっていくのではないかと。 【協議題②】「吉田の魅力発信」について 【各委員等からの意見】 ○溪谷苑のダブルカツ丼など、目を引く商品を発信していくのはどうか。また、福石氏のドラム作品に関しても南日本新聞で取り上げられており、周囲の反応もよかった。そういった地域で活躍されている方について発信していくのも面白いのではないかと。 ○山の中に住んでおり、子供たちに色々な体験をさせてあげられている。吉田にはいくつもの林道があるため、林道を活用したハイキングなども面白いのではないかと。 ○吉田の特産品を抽選でプレゼントするのはどうか。野菜やお花などを1箱に詰め込み、そこにさらに吉田のフォトブックなどがあれば、吉田の魅力が発信できるのではないかと。吉田南中学校で、吉田の魅力と特産品をどのように発信しているかという

議題について生徒と一緒に話した際に、共同マップを作ったという意見が挙がった。共同マップをインスタなどで発信するのはどうだろうか。

【協議題③】「吉田で笑って暮らすための支援の検討」について

【各委員等からの意見】

○草刈り隊の設立について、依頼は多くなると思うが良いのではないかと。現在、商工会青年部がゴミ拾いを行っているため、協力できると思われる。

○刈った大量の草の処理が大変なのは。最終的にたどり着くところが捨てるという作業のため、しっかりと考える必要があると思われる。

○地域では草刈り機を持っていない方が大半で、持っている人は高齢者ばかりである。草刈り機を使わない高齢の方から回収しても良いのではないかと。草刈りをしてみたいけど、やったことがない人などに向けて、一度草刈り体験会などを開催してみてはどうか。

(4) その他

【野中地域活性化アドバイザー】

○交流人口の拡大を図るという部分で、令和8年度の事業を見た時に800人の交流人口が生まれるとは思えない。吉田地域活性化協議会のことを取り上げているが、委員の皆様はどういう方がこの組織に入られているかご存知なのか。この組織は今だれでも入ることが出来る状態になっている。共創事業の目的に関係のない方も加わる可能性もあるため、規約をしっかりと作って話をしなければいけない。

○支所公式 SNS と違い、吉田地域活性化協議会の SNS はジャンル問わず何でも発信していいのでは。例で挙げるならば、吉田の土地の安さを不動産業者と連携して発信するなど。

○草刈り隊の設立については、全国の地域で頭を抱えられている問題であるため、実現できれば一番良い。しっかりと運営できるところまで繋げていくために、地域の現状や課題について話し合う必要がある。喜入に草刈りツーリズムという団体があるため、取材に行ってみては。単純に作ってしまうだけでは長続きしないため、組織としての形をしっかりと作る必要がある。